

池袋の路面電車と  
まちづくりの会 会報

第3号

2005年7月

発行/池袋の路面電車とまちづくりの会  
〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-22-1  
電話03-3971-6111  
<http://i-tram.com>

# iとらむ

「iとらむ」…「とらむ」は新型路面電車のこと。「i」はIkebukuroに人と環境に優しい「愛-1」のあるまちづくりを願う、この会の理念を表しています。



## Contents ▶▶▶▶▶

## 目次

みょうにちかん 明日館で豊島の明日を語る…2.3

あした シンポジウムのご報告…4.5

iとらむ寄席…6 Voice、Q&A…7

INFORMATION…8

表紙: 雑司ヶ谷方面からサンシャイン方面を望んだ環5-1周辺の予想図  
提供: 南池袋2丁目<Bゾーン>まちづくり協議会

第22回 事務局及び専門部会合同公開会議

みょうにちかん

あした

## 明日館で豊島の明日を語る!



日時:2005年2月26日(土) 14:00~ 場所:自由学園 明日館講堂

**【宮田会長】**この会が発足しましてからもうだいぶたち、会議も22回目になります。

本日は豊島法人会の青年部、東京商工会議所豊島支部の青年部など豊島区の経済人の若手の第一人者、そしてNPO法人交通ビジネス研究会という専門の方々のご貴重なご意見を伺って、池袋のLRTが早く実現するためにどうしたらいいか、みんなで話し合う会議にしたいと思います。

**【上妻】**LRTが起爆剤となって、池袋に人が集まり周辺に流れてくれば、間接的に他の地域もメリットが出てくる。しかし、それだけでは説得力として弱い。導入の効果が区民のためにその後も続いてくれなければ、それだけで終わってしまうと感じます。

例えばワーストと言われる駅前の自転車の多さは、他の交通手段より便利と感じるからです。小型バスが出ている他の都市もあります。LRTも豊島区が抱える放置自転車や交通の不便な地域の課題解決につながる公共交通として考えてみたいと思っています。

**【中村】**池袋の駅から左右両サイド、LRTの車窓から見る池袋の通り沿いのイメージを作ってみたらどうでしょうか。

LRTの駅によって特徴を出すのも面白い。ここで降りれば10〜20才代ゾーン、ここは30〜50才代、60才代以上みたいな想定エリアを見せられれば、年齢層を問わず人を引きつけ、池袋に行けば「何でもある」「楽しめる」「そこから足を伸ばす」という魅力が生まれます。LRTが今までとは違ったエンターテインメントを育てることを強調したい。

**【阿部】**ただ線路を敷いて、電車が走るだけでは存在価値がない。地元の皆さんの生活に役に立って初めて価値が出てきます。

さらに営業的な努力というか、売り上げを上げるための工夫やシステムを作ることにも必要です。基本的なサービスである、スピードと待たずに乗れること。西武、東武をくり抜いて3階レベルに入り、JRの駅の真上で電車の乗り降りができるなどすべきたと思います。建築構造上、柱の補強をすればできる話です。

国も支援制度や補助金を充実させていますから、きちんとサービスを提供して、コストをかけないように創意工夫すれば、成功します。

**【小林】**LRTが敷かれることによって「まちの空間」が広がりが持って捉えられ、いろいろなることができると思っています。これまでのLRT構想は理念が中心でしたが、具体的に「車窓」から「通り」からLRTが見える街並み、駅での乗り方、到着した場所ですごく楽しめるか、それらがこれからの生活をどう変えるか、などの未来像を描く事が実現につながるのでしょうか。

先日のオープンカフェ社会実験では、空間を使ったイベント、街並み景観の変化、大通りと駅前広場との関わりによって何ができるかなど「これからの暮らし方」について想像力が広がったと感じます。

**【渡邊】**ヨーロッパでは車の乗り入れを減らして、排ガスなどを減らすということが目的でLRTが走っています。車が減ることと、空間ができて街並みが変わっていくと思います。

豊島区にLRTを走らせたいというのは、街並みの景観とかまちづくりの一環ということがあっても、ヨーロッパのように

# Member ▶▶▶▶▶



上妻 英成さん  
(社)豊島法人会  
 青年部会  
 部長(現顧問)



中村 安次さん  
東京商工会議所  
 豊島支部  
 青年部会長



渡邊 裕之さん  
東京商工会議所  
 豊島支部  
 青年部顧問



阿部 等さん  
NPO法人  
 交通ビジネス研究会



藤村 健二郎さん  
NPO法人  
 全国鉄道利用者会議



高野之夫さん  
豊島区長



宮田 和昌さん  
池袋の路面電車と  
 まちづくりの会 会長



高村 光明さん  
池袋の路面電車と  
 まちづくりの会 事務局長

小林俊史さん(事務局)  
 平井憲太郎さん(専門部会)  
 富沢弘治さん(事務局次長)  
 溝口禎三さん(事務局)

この他、多くの方にご参加、ご発言いただきましたが紙面の都合上割愛いたしました。

大きな目的を持つことも必要だと思えます。高齢社会や地球環境とかいろいろなことを配慮して、車に代わる乗り物をつくろうよと。まちづくりも、そういうことを考える時期に来ているのではと思います。

【藤村】フランスではLRTを敷くときに、行政側がものすごく宣伝をします。パビリオンなんかを作ったりして。池袋のまちづくりのアイデンティティーが決まってくると政策的なアピールができるはずですが。

【平井】「区民の理解を得られないとむだだらう」というお話ですが、できて便利だと思ってもらえることが一番大事だと思います。LRTの競合相手は自転車でしょう。自転車よりもっと便利なものをつくらないと乗らないと思います。

駅の3階をおち抜いて、全く雨に濡れることなく電車に乗りかえられるというのは、その好例です。バスの一番の欠点は、滞留する時間と、乗り降りの不便さです。「便利」だと人に納得してもらえないものをつくらば、お客はどんどん増えてくるのかなと。

【富沢事務局次長】LRTは基本的に街をよくしたいという事業です。池袋には、世界中からたくさんの方が来てくれます。池

袋に来て、文化を感じ、暮らして、楽しんでもらえる街になってくれたらと思います。その人たちを、受け入れる準備、「おもてなし」をする玄関にあるのが路面電車です。路面電車を見て、「人にやさしく、環境を意識している街だ」と一目でわかるものを作らせた。

LRTは、ただ人を運ぶだけではなく、池袋、豊島区全体の文化を盛り上げていくものとして必要なのです。

【溝口】私は、まずグリーン大通りを広場のような公園にしたいというのが望みです。戦後車社会になって個人個人が豊かになり、路面電車を駆逐した。それは公私の「公」に「私」が勝っていったのだと思います。しかし、人が集まる町中では、一人一人が孤立して「私」がぶつかり合うと楽しくありません。路面電車というのは公私の「公」を非常に象徴していると思います。今は成熟社会、高齢化社会です。住んでいる人たちが楽しめる街、文化的で豊かな街。ユニバーサルデザインとか、それは公私の「公」を取り戻したいという精神的な揺り戻しです。だから、象徴として、池袋が先駆けて公私の「公」を取り戻すまちづくりをする

のです。そのために路面電車をぜひ導入してほしいです。

【渡邊】先ほどの国交省のオープンカフェでは、当日、音大の学生さんが来て音楽やジャズをやりました。会社員が仕事を終わって、珈琲を手に演奏を聞いて「毎週やってもいいよ」という声が多かったですね。富沢さんが言った「おもてなし」には、小さな努力が大事です。池袋に行くとか何かやっていると、ほっとするとか、忘れていたものを取り戻すという感覚は都市に必要ではないかと感じました。

【高村事務局次長】今日は、皆さんからLRTについて、池袋東口の問題というのではなく、広い観点からLRTに期待するところが聞けました。まちづくりの基本的なことを考えないと活性化につながらないと私も感じました。豊島区は幅広い層と多様な魅力を持つ街です。池袋のLRT構想が新たな社会への扉を開く形となるものにしていけたらと強く思います。

【高野区長】今日のお話は、若さがあふれていてエネルギーを感じます。このLRT構想の話が出たときから、街の考え方が変わってきていると実感してい

ます。これからの10年間、豊島区全体のまちづくりの姿の象徴のように見えてきました。文化行政の姿勢も浸透してきています。路面電車も一つの文化です。街全体がそういうムードになってきている、こういうときに千載一遇のチャンスです。今、こういう事業を一つずつつくり上げていかなければ、豊島区のまちづくりは後退してしまいます。

文化と都市再生ということをテーマにして、私も皆さんの意向を踏まえながら、行政のまず我々職員が変わらないと街は変わらないよというような形でやっていきたいと思っています。

「財政難だからできません」——これだけはやめろと。どう工夫をすれば、「できる」ように変えられるか。それが今、我々に求められているもので、区民の期待に応えるにはそれしかない。いずれにしろ私は、LRTが走れば間違いなく豊島区が変わると思っています。

【富沢事務局次長】力強い応援の意見が聞けました。これからも若手の皆さんで力を合わせて豊島区のことを考えていきたいと思っています。ありがとうございます。

Symposium Report

第4回

「池袋の路面電車とまちづくり」  
シンポジウムのご報告

オーストリアのLRT及びその路盤技術の紹介



平成17年5月27日に、オーストリアのLRT及びその路盤技術の紹介を主眼に、池袋LRT構想の実現に資すべく第4回のシンポジウムを開催しました。オーストリア関係者を含めて会場から溢れる約150名の参加を頂き、池袋LRTへの注目の高さを印象付けました。

主催:オーストリア大使館商務部/池袋の路面電車とまちづくりの会  
協力:NPO法人交通ビジネス研究会  
後援:豊島区/(財)としま未来文化財団



10:00~11:30 現地視察

オーストリア及び池袋の関係者約30名で、池袋駅→<徒歩>→雑司ヶ谷駅→<都電>→早稲田駅→<都電>→東池袋四丁目駅→<マイクロバス>→サンシャインルート  
の行程により現地を視察しました。オーストリアの専門家から以下の意見を受けました。  
・これだけの人の多さとLRTを通せる空間(広幅員道路)があることから、実現可能性は高い  
・LRTにより池袋の魅力を高められる、区長を筆頭に夢を持って取組むべき  
・都電と連携した池袋と早稲田方面との結節を考慮すべき、直通乗入れも一法



1.サンシャイン通りを前に人の多さに驚く 2.サンシャインシティ60を背景に用地買収の進んでいる環5-1道路予定地を進む 3.参加者から区長へ熱心な質問責め(早稲田駅にて)  
4.グリーン大通りを歩きながら 5.都電の中はオーストリアの方々で満員 6.昼食時、オーストリアの皆さんと池袋の皆さんとの和やかな国際交流のひと時



## 13:00~14:30 シンポジウム第一部

豊島区都市計画課鈴木課長と高野区長が池袋LRT構想を説明し、グラーツ工科大学のリースベルガー教授とウィーン公共交通のフィッシュマイスター技術部長がウィーンの路面電車やその技術を紹介しました。その後、4名によるパネルディスカッションを行い、以下のような紹介・議論がされました。

- ・ウィーンには路面電車が200km以上あり、地下鉄・バスと合わせて公共交通のみで便利に移動できる
- ・オーストリアの軌道技術は制振・騒音防止に優れ、池袋のような人口密集地域に好適



1.高野区長が池袋LRT実現に向け熱い想いを語る 2.グラーツ工科大学教授リースベルガー氏(左)とウィーン公共交通技術部長フィッシュマイスター氏(右) 3.豊島区都市計画課 課長鈴木氏



スライドを使って先端技術を紹介

## 14:50~16:10 シンポジウム第二部

オーストリアの路盤・レール・制振材料等のメーカー5社が技術プレゼンテーションを行い、ヨーロッパのLRTにおけるシェア80%を誇る最先端技術の紹介を受けました。LRTと言うと車両に目が行きがちですが、それを支える“縁の下の力持ち”の重要性を認識できました。

## 16:30~18:00 ワークショップ

現地視察及びシンポジウムに引き続き、オーストリア及び池袋の関係者約40名で交通計画及び技術に関する意見交換を行い、以下の議論がされました。

- ・LRTは、利用者・区民にとって便利で役立つものでなければいけない
- ・他の交通機関との乗継ぎ利便性・共通運賃といったハード・ソフトのネットワーク形成が重要
- ・制振軌道の有効性を理解するには、試験敷設して沿線の人に経験してもらった方がいい



オーストリアLRT路盤技術の様々な分野の専門家達



井戸端サミット

iとらむ

日換会議 五十百冊編

作：逢中亭登来夢

●ご隠居さん・巢鴨在住(80) ●奥様・大塚出身(69)  
●若旦那・池袋在住(41) ●クルト・横太利人(年齢不詳)

参

車との共存

隠居「ウチの前に車置くな」

若旦那「すみません」

隠居「何だお前か！ほ〜良い車乗ってるな〜椅子なんざ皮張りだ……これがたよくお前が言ってた超低床式路面電車LRTって」

若旦那「そうです、これがタイヤトラムです。……ご隠居勘弁して下さい」

奥様「若い頃はこんな嫌みな人じゃなかったのよ」

隠居「ワシは、言ってる事とやってる事が違う奴が大嫌いなんだ！『環境に優しいLRTを』と言っている奴が、何で車に乗っているんだ、公害撒き散らしているんだぞ。ほらグーの音も出ないだろ〜えっ何とか言ってみる」

若旦那「グウ〜グウ〜」

隠居「寝るな！方針変更か？」

若旦那「違います」

隠居「本当の事を言ってみろ！怒らないから……吐けば楽になるぞ……カツ丼食べるか？」

若旦那「犯人じゃないんだから……今、駐車違反や駐車場待ちの渋滞で環境が悪くなっています。何度も言っていますが、来街者も減少しています。そんな状態から脱却したいといけません。郊外の移動は車、都心部の移動はLRTという住み分けが必要です」

隠居「住み分けて事は、お前の乗っている車も必要だって訳だ。結局そういって、LRTじゃなくて車で用足しするだろうな」

若旦那「来街者の利便性、運行間隔、駅の配置を考慮し他の交通機関と総合的に考えれば、車を街中へ入れなくても人々の需要にこたえられます」

注目される可能性

注目される可能性

クルト「グーテン ターク」

隠居「何だ？」

若旦那「こんにちは」

クルト「LRTの話ですね。ここは、人が一杯いますね。道路も広いしLRTを走らせる条件は揃っている。都電もある。池袋駅前からLRTを都電雑司ヶ谷駅まで走らせ、早稲田まで繋いじゃう、ついでに早稲田大学の中にも走らせる。次に西池袋に行き、立教大学まで走らせる、どんどんLRTのネットワークを構築する。主要な駅だけでなく、大学と大学を繋ぐのも面白いですよ。」

若旦那「さすが、斬新な発想」

隠居「走っている周辺はうるさいだろ」

クルト「制振軌道で解決です」

隠居「成功すると思うのかい」

クルト「ネットワークだけでなく多くの方に利用され、街の活性化に貢献し、事業性を確保するには使って便利が第一。環境を考えている地域では、LRTを活用しています。世界の潮流です」

隠居「ん〜日本語上手くて感心した。郷に入っては郷に従えってね。ハハハ気に入った。ココは俺の城だ、鯨をとったから食いね〜なに遠慮する事はないよ。で何かい。あなたLRTに詳しいけど、その〜一番LRTの合う街ってどこかな」

クルト「ストラスブール」

隠居「うん、まあストラスブールにはかなわね〜な、それから」

クルト「カールスルーエ」

隠居「うん、両方ともトランジットモデルだな。次は」

クルト「リヨン」

隠居「だからさ、そんな遠く行かなくてもいいでしょ、もっと近くでいいところあるでしょう。ところで随分と鯨食ったね〜食いすぎだよ、少しは遠慮って気持ちが無いのかね」

クルト「すみません」

隠居「本当だよ、おまえ黙ってみてないで片付けなよ」

奥様「いいのよ、遠慮しなくて」

隠居「何威張ってるんだ、ここは俺の城郭

だぞ。奥は黙って居れ」

クルト「シアトル」

隠居「アメリカかい。もっと近くにあるだろう……お願いだから胸に手当ててゆっくり考えて（涙）」

クルト「あつすみません、肝心なの忘れてた」

隠居「ほらみろ、あつただろ近くに」

クルト「富山」

隠居「なんだよ！LRTに詳しい様で大した事無いね。だろ、肝心なのを知らないかいつてんだ」

クルト「そうそう、こいつがピタリなまちだ！池袋！一番だよ。……だけど、まだ走ってないからね」

隠居「大丈夫！ワシが責任を持って走らせる」

若旦那「外人の話は素直にきくんだなあ。年寄は外人に弱いって事を証明したようなもんだな」

隠居「オーストリアに帰るのかい？」

クルト「新宿に帰ります」

隠居「なに？」

クルト「住まいは新宿です。日本法人の社長やっています。我が国の制振軌道はすでに日本の鉄道に活用していただいている所も有るんですよ。その線路の近くのお寿司屋さんで一緒にしましょう、オゴリますよご隠居さん。線路の側でも静かですから」

若旦那「え〜と何時にします？」

隠居「いいんだよお前さんは、アフ ヴィーダーゼーエン」

## Voice ▶▶▶▶▶

## 田村 和久 さん

東鴨信用金庫 理事長

環境に優しく、乗り降りのしやすい路面電車(LRT)の実現によって、若い人だけでなく高齢者の方々も移動が楽になり、池袋の街をもっと楽しむことができるようになると思います。人の流れが変わり、街並みも変わり、商業空間の活性化に繋がる、21世紀のモデルとなる公共交通システムは、文化の風薫る池袋のまちづくりに大きな可能性をもたらすと存じます。地元の方はもちろんのこと、池袋を訪れる誰もが、気軽に利用できる路面電車(LRT)の実現を心から楽しみに致しております。

とうま  
當麻 功 さん

株池袋ショッピングパーク 代表取締役社長

地元の方々のご支持を頂いて40年、池袋の玄関口に当る当社の施設を池袋の未来にふさわしい環境に作り変えました。商業都市、観光都市として、他地区に勝るインフラの整備をすることで、都市としての顧客吸引力向上に貢献し、地域を挙げての継続的な集客力、情報発信力に繋げたいと考えています。特に当社のメイン通路のシャッターの両側には、地元での実現の早期化を願ってヨーロッパの街並みを走るLRTの風景を取り入れ、池袋が未来都市に向かって走っていくことを願ったものです。



## 佐藤 栄吉 さん

南池袋2丁目(Bゾーン)まちづくり協議会 会長

私たちの街は今、大きく変わろうとしている。都市計画道路「環5の1」が計画され数十年が経ち、姿を現し始め、地下鉄13号線の開通も目前に迫る。

昨年12月には、「街並み再生地区」に指定され、(B・Cゾーン)のまちづくり計画は進んでいる。又、(旧)日ノ出小学校跡地は区の施設の候補地として開発が進む。

南池袋2丁目(B・Cゾーン)まちづくり協議会では、「環5の1」地下車道化と、LRTの都電雑司が谷駅經由早稲田駅までの乗り入れを求める(B・Cゾーン)の地域住民の署名をもって、高野豊島区長へ要望した。

いづみ  
乾 貴美子 さん

アナウンサー・タレント

3歳の頃からのパレエ教室(inサンシャイン)にはじまり、立教大学を卒業するまで私にとっての学びの場が池袋でした。同時に、電化製品からお洋服まで、すべての買物の場所が池袋でした。東口でアレを買って～西口ではコレを買ってえ～なんて、池袋の端から端までショッピングするには結構距離がありますよね。買物袋ぶらさげながらのショッピングは、正直体力がいります。だから路面電車があつたら物凄く便利だろうな。お年寄りにとっても散策しやすい街になりますしね。一日も早く実現して欲しいです!



## Q&amp;A ▶▶▶▶▶



日本国内では今年3月に岐阜で路面電車が廃止となってしまいましたが、世界の潮流はむしろ「新たに路面電車を見直そう」という方向に進んでいます。自動車社会のアメリカでも大都市ヒューストンやダラス等でLRTが新規に導入されているように、欧米では「LRTルネッサンス」と言われLRTの新規導入が相次いでいます。日本の国土交通省も欧米各国に遅れまいと、LRTへの色々な交付金、助成金を用意して自治体から手が上がってくるのを待っている状態です。池袋は新設1番乗りを狙っています!

## 路面電車でもう昔のものなんじゃないの?

どの路線もそれぞれ魅力的なのですが、雑司ヶ谷ルートをまず初めに考える必要があります。環5-1の道路空間の使い方の検討が進んでいますし、地下鉄13号線の工事も始まるので、今やらないとLRT無しの状態が計画が進んでしまい手遅れになってしまいます。他の2路線は、今後再開発との定期的な兼ね合いも考慮しながら順次検討していきます。更にはそれぞれの線の延伸や西口へと、これからどんどん展開していきます。



## 3路線が候補に挙がっているようですが、最初はどこになりそうですか?





<http://i-tram.com>

# INFORMATION

## 活動報告

平成16年11月～

平成16年

11月4日

### ●第3回シンポジウム及び総会・親睦会の開催

一池袋LRTとひとにやさしいまちづくりー

山崎泰広氏を招いて、車いすの視点から見た街づくり、ユニバーサルデザインなどについてお話を伺いました。総会では、第1期事業報告及び決算報告・監査報告、第2期事業計画案と予算案が承認・可決されました。

11月3日～6日

### ●「池袋みち新生」社会実験を共催

NPO法人東京アーバンクリエイティブ21と(財)豊島区街づくり公社との共催で、グリーン大通り沿道でオープンカフェを実験的に実施。4日間の実験でしたが非常に好評でした。



オープンカフェで休み。街歩きも楽しくなる！

2月16日

### ●公開会議(事務局及び専門部会)開催(本誌2～3ページ)

2月22日

### ●東京新聞に掲載されました

「文化咲く豊島に」と題した座談会が東京新聞社主催で行われ、豊島区の未来とLRT計画について語り合われました。

豊島区長高野之夫氏、映画監督実相寺昭雄氏、元東京都副知事青山伸氏、池袋シネマ振興会永田裕氏、当会事務局富沢弘治氏



東京新聞掲載紙面

平成17年

5月8日

### ●日本テレビ「新ニッポン探検隊」(6:30～6:45)で当会の活動が放映されました

テーマ:「としま区の挑戦 アートと文化でまちおこし」

5月27日

### ●第4回シンポジウム開催(本誌4～5ページ)

ーオーストリアのLRT及びその路盤技術の紹介ー

6月25日

### ●第1回「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 宇都宮」に参加

全国からLRT関係者が集まる中、池袋のLRT計画を発表してきました。

7月3日号

### ●読売ウィークリーに掲載されました

「池袋、路面電車でGO!」と題して池袋の計画が紹介されました。



読売ウィークリー掲載紙面

## 入会のご案内

### 入会方法・年会費

#### 会員募集

- 1.個人会員(個人的にご入会の場合) 年会費3,000円
- 2.法人・団体会員(会社・学校・病院・町会・商店街・任意団体などでご入会の場合) 年会費10,000円  
また別途、賛助会員もお受けております。年会費 一口10,000円(一口以上からお受けております。)  
別紙申込書にご記入の上、下記にファクシミリ、または郵便でお送りください。

#### お問い合わせ

(財)としま未来文化財団(旧(財)豊島区街づくり公社) まちづくり課 〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-20-10  
担当:武田、井上 TEL:03-3981-4732 FAX:03-5992-6099  
「池袋の路面電車とまちづくりの会」事務局 担当:高村 TEL:03-3971-6111  
e-mail: [info@i-tram.com](mailto:info@i-tram.com) ホームページもご覧下さい <http://i-tram.com>

## 編集後記

先日イタリア、クロアチアを旅する機会があり、図らずもローマ、ザグレブの街を走る路面電車を見ることができました。

中世期の石造りの街並みは、自動車用に道路を拡張したりするとは難しく、その意味ではわれわれの池袋と条件は同じです。どちらも今ある道路をどう使っていくか考えなければなりません。アイデアの勝負です。

そういう視点で見ると、果たして街中に自動車が見が物願で入ってきているのがいいのかどうか、疑問が湧いてきます。

池袋の駅前のグリーン大通りは歩道が両側で20メートル、かたや車道は中央分離帯まで入れて30メートルあります。これを観ていると車道も込んでいくけど、歩道は

もつと込んでいて、人はお互いにぶつかり合うように窮屈そうに歩いています。なんか変。

郊外の交通は自動車主体でいい、都市内の交通もそれでいいかもしれない。でも、せめて街中は人が中心と感じられるほうがいい。

ヨーロッパの路面電車は人中心のまちづくりの方向を指し示しているようで、とても参考になりました。

記:溝口積三

協力/ (財)としま未来文化財団

(株)アドクリエイション

(デザイン・寺合英久)

NPO法人交通ビジネス研究会

オーストリア大使館 商務部